

二〇二四年二月一六日

目潰しの落暉広がる枯野かな	ぼんこ
玉砂利を踏みつつ愛でる庭紅葉	せいじ
百年の杜もとほれば木の実雨	むべ
漣の千々に乱るる紅葉影	澄子
杉苔へ翻り落つ照紅葉	たか子
小春日の洲浜に松の威風かな	わかば
倒影の朱を極めたる唐楓	はく子
水鏡の青天井を鳥渡る	むべ
セコイアの秀枝こぼるる秋日影	うつき
紅葉且つ散る草庵の檜皮茸	たか子
ピースして破顔一笑七五三	えいじ
錦してアメリカ楓は炎立つ	うつき
啄木鳥や木椅子に耳を傾けむ	うつき
太陽の塔見下ろして昼の月	せいじ

石路日和清談弾む茶席かな	よう子
中島の要の松の色変へず	ぼんこ
薔薇健気冬を迎ふになほ赤く	はく子
湧水に躍りやまざる紅葉影	澄子
枯蓮の池に射す日の翳り癖	あひる

定例WEB句会みの選

二〇二四年二月一六日